

湧別川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】（案）

～オホーツク圏の物流・交通の要衝を堤防決壊の危険から守る治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、湧別川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、湧別川流域で甚大な被害が発生した戦後最大の平成18年10月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

【位置図】



平成18年10月洪水
被害家屋32戸、氾濫面積138ha



■河川における対策
対策内容 河道掘削、堤防整備、堤防強化対策 等

■流域における対策
・武利ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、北海道、町、電力会社など）
・下水道雨水管の整備 等
※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策
・水位計・監視カメラの設置
・プッシュ型情報配信、防災無線等を活用した情報発信の強化 等
※今後、関係機関と連携し対策検討

北海道管理河川（一級河川指定区間）
生田原川

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。